

第1回 教職の魅力創造プラットフォーム会議事録

日時：令和4年6月21日（火）16：30～17：50

場所：山形大学地域教育文化学部会議室

出席者

委員	出口 毅	山形大学副学長（教育担当理事）
	中西 正樹	山形大学地域教育文化学部 学部長・大学院教育実践研究科 研究科長
	大村 一史	山形大学地域教育文化学部 教授
	石垣 和恵	山形大学地域教育文化学部 准教授
	江間 史明	山形大学大学院教育実践研究科 教授
	森田 智幸	山形大学大学院教育実践研究科 准教授
	井上 文	山形県教育庁高校教育課 指導主事
代理	（黒沼 直洋	山形県教育庁高校教育課 主任指導主事）
	鎌水 浩二	山形県立山形西高等学校 教諭
	深瀬 百合	山形大学地域教育文化学部児童教育コース4年
	村岡 亜美	山形県立山形東高等学校2年
	中入 奏音	山形県立山形西高等学校2年
	青柳 敦子	山形県立長井高等学校 校長
	樋渡 美千代	山形県教育センター 副所長
	宮舘 新吾	山形大学大学院教育実践研究科 准教授

欠席者

委員	藤田 千世	山形大学地域教育文化学部児童教育コース4年
----	-------	-----------------------

議事に先立ち、出口副学長より挨拶として、まず、教職関連の最近の動向について3点の話題提供があった。第一に教員採用倍率について。小学校における令和3年度の採用倍率は、全国で2.7倍、山形県においては1.6倍であり、東北のなかでも最低であった。東北では秋田県が1.9倍、福島県が1.8倍と低く、仙台市の4.4倍が一番高い倍率となった。首都圏では教員免許を持っていても民間企業に流れる傾向にあり、教員志願者の裾野が一層せばまる状況となっている。第二に教員不足について。メディアで報道されているように、この4月には全国で2,000名以上の教員定数が埋まっていない状況となっている。第三に若年層の離職問題について。県議会でもこの問題は取り上げられており、教職をやりがいのある仕事として伝えていくことが一層重要になっていると認識している。

次に、上記について大学としてできることとして、3点の指摘があった。第一に高大連携を通して高校生からの意見を受け止めながら、若い世代に教職の魅力を感じてもらえるような取り組みを行っていくこと。このプラットフォーム会議はその取り組みであること。第二に今後、教員の採用数が減っていくなかで、地域の教育を魅力あるものにするために教育行政とさらに連携していく必要があること。第三に若年層の離職問題に対応するために、学生を卒業させて終わりではなく、卒業後も学校現場と連携していく必要があり、そのためにも在学生の声をしっかりと取り入れながら、教職の魅力を創造する大学を目指していきたい旨発言があった。

その後、委員の自己紹介が行われた。また、協議事項は、「山形大学地域教育文化学部及び大学院教育実践研究科教職の魅力創造プラットフォーム会議規程」第5条により、中西正樹委員を議長として進めることが提案され、了承された。

議 題

I 協議事項

1 教職の魅力創造プロジェクトの目的

森田委員から、資料3に基づき本プロジェクトの目的とこれまでの活動について説明があり、確認がなされた。

次いで、以下のような意見交換があった。

- ・中学生への告知はどのように行っているのか。
- ・高校へは校長会を通して行っている。中学生へのアプローチをどのようにしていけばよいかご意見をいただきたい。
- ・中学校の県の校長会を通して告知をお願いしてみてもどうか。
- ・村岡委員と中入委員に、中学生の時に教職を意識したことがあるか、お聞きしたい。
- ・中学生の時には教職という職業を視野に入れていなかった。高校生になった時に高校の先生が授業中に話すエピソードを聞いていて、もし自分が教員になった時に同じように授業で話ができればと考えるようになった。また、中学生の時に一生懸命勉強に取り組めたのは、先生が授業づくりをいろいろと工夫していたからだと認識するようになって、教員という職業を意識するようになった。
- ・中学2年生の担任の先生に憧れがあり、教員という職業を意識するようになった。

2 教職の魅力創造プロジェクトの進捗状況について

黒沼委員から、机上配付資料に基づき小学校教員体験セミナーについて、江間委員から、資料4に基づき聞き書きプロジェクトについて、森田委員から資料5に基づき学びのフォーラムについて説明があり、確認がなされた。

次いで、以下のような意見交換があった。

① 小学校教員体験セミナーについて

- ・来年度採用の小学校教員採用試験について、185名の採用予定のところ、255名の志願者にとどまっている。1.38倍の見通しであり、教員採用倍率は下げ止まっていない。
- ・長井高校には教員を目指している生徒が多いので、例えば長井高校と長井市内の小学校が直接連携し、それに山形大学の学生が参加するような、教育行政に頼らない直接的なアプローチができる機会があってもよいのではないか。
- ・今年度の入試広報の分析では、大学入学共通テストの難化に伴い、県内の高校生が、県外の私立大学に流れている結果が出ている。県内の教員養成を行う私立大学の会議では、今後、入試広報活動は国公私大の枠組みを外して県内の大学が協同して実施していく必要があるのではないかと話題も出ていると聞いている。
- ・授業を受けている立場で何となく先生の大変さは感じている。小学校教員体験セミナーを通して、授業づくりの難しさや先生という仕事の大変さを実際に体験することでより具体的に理解できるのではないかと思う。
- ・SNSを通して教員という仕事の大変さを目にしたことはあるが、どこか遠い存在であるような気がしていた。小学校教員体験セミナーを通して実際に体験できる機会があればもっと身近に感じるができると思う。
- ・教員という仕事に具体的なイメージを持ってないところが、志願しないという結果に繋がっていると思う。なんとなく興味があるというような少しでも可能性がある高校生にも、まずは参加を促す声掛けの必要があるのではないか。実際に参加してみた生徒に聞いてみると8割程度は教員になりたいと思って帰ってくるという話もあるので、プッシュしてみることの重要性を感じている。
- ・先生が一番身近な存在だったため、漠然と教員になるという思いがあったため、地域教育文化学部の児童教育コースに入学した。入学当初は中学校の国語の教員を目指していたが、教育実習を通して小学校の先生になりたいという思いが強くなった。実際

に子供達と関る経験がないとわからないこともあるので、小学校教員体験セミナーのような機会がもっとあってもよいと思う。

②聞き書きプロジェクトについて

- ・聞き書きプロジェクトの成果物は、教員の初任者研修でも活用できるのではないか。
- ・自分は過去に聞き書きプロジェクトで学生のインタビューを受けた立場であったが、初任者研修で講義を行う場面があり、その時にインタビュアーだった学生2名に対して、逆に教員になってからの話を聞く様子を撮影して初任者研修で見てもらった。その映像を見た初任者は触発され、いろいろなことを語ってくれることがあったので、本プロジェクトの活用事例として紹介したい。

③学びのフォーラムについて

- ・今年度は、昨年のこのプラットフォーム会議での議論をうけて、初めて米沢と鶴岡でのフォーラムを予定している。対面実施と同時にオンラインでも実施したいと考えている。高校生にとっては、対面とオンラインとでどちらが参加しやすいかをお聞きしたい。
- ・オンラインでは画面を隔てることになるので、大学生や教員と意見交換をすることを考えると、オンラインよりも対面の方が参加しやすい。
- ・対面の方が聞いたことに対して答えたり、その場の空気感も味わえたりするので、オンラインよりも対面の方が参加したいと思う。
- ・学校でオンラインに慣れている中学生や高校生は物怖じせずオンラインで参加できるので、最初は敷居が高いかもしれないが、時間と場所に縛られずたくさんの機会を提供できるのはオンラインのメリットであり、担任としても生徒へ紹介しやすい。
- ・今年は置賜地区でも開催いただきありがたい。対面とオンラインの同時開催の効果について検証していくのもおもしろいのではないか。
- ・教職大学院の修了生の方を通じて、学校側に周知する方法も効果的な宣伝になるのではないか。

3 今年度の今後の予定について

森田委員から、次回は令和4年12月18日（日）9:30より本会議を開催する予定である旨発言があり、確認がなされた。

4 その他

特になし

